

平成 26 年度 大阪府立交野支援学校 第 1 回学校協議会 報告

1. 日時・場所	平成26年6月23日（月） 13時から15時 本校会議室				
2. 出席者	【学校協議会委員】				
	金見 幸夫		元大阪府立学校長		
	八尾 康典		交野自立センター所長		
	大河内 孝子		交野市森地区区長		
	小西 均		四條畷市砂地区区長・砂自治会長（公務により欠席）		
	藤田 洋子		大阪府立交野支援学校 PTA 会長		
	鳥越 真弓		大阪府立交野支援学校四條畷校 PTA 会長		
	【事務局】				
	校 長		高塚 良則	准校長	井上 昌二
	事務長		島田 敬三	四條畷校教頭	南 佐和則
	本校教頭		松尾 光雄	四條畷校首席	鈴木 亮彦
	本校教頭		藤野 洋子	四條畷校首席	植木 敏幸
	本校首席		丹羽 はるか	四條畷校中学部主事＊	長尾 潤
	本校小学部主事		坂田 佳代子	四條畷校高等部主事＊	村上 智則
	本校中学部主事		志賀 泰彦	＊ 四條畷校での学校協議会開催時に出席	
	本校高等部主事		米良 知之		
3. 次第	(1)校長挨拶（高塚校長） (2)協議会委員および事務局員紹介 (3)会長の選出と本年度の学校協議会実施要綱の確認 《推薦により、会長に金見幸夫様、会長代理に八尾康典様が選出された》 (4)本年度の予定 (5)本年度の学校経営計画（本校） 本年度の学校経営計画（四條畷校） (6)意見交換 (7)准校長挨拶(井上准校長)				
4. 報告	＊《本校「学校経営計画」説明》 「めざす学校像」実現に向けての「中期的目標」を確認後、学校長が「今年度の具体的な取組内容とその評価指標」を中心に説明を行った。 【中期目標】 1. 安全安心な学校づくり (1) 大災害時の体制整備と対応マニュアルの作成 ・ 基本的な対応マニュアルに関しては昨年度完成した。 ・ 大災害（震度6～7を想定）に特化したものは、特に登下校時のスクールバスでの対応等、様々な想定が考えられるので対応マニュアルに難しい部分があるが、相談しながら作成していきたい。 ・ 今年度は、備蓄食を3日分にしていく方向でPTAと協働。 ・ 本校は福祉避難所ではないが、学校内で被災した場合を想定して3日分にした。それ以上になると、交野市との連携が必要になり、現在交野市の防災関連部署へ連携をお願いしている。自立センターとも連携していきたい。 (2) 安全安心な医療的ケアの実施 ・ 重度化多様化し、現在医療的ケアのある児童生徒が60名近く在籍している。 ・ 安全安心な医療的ケアを行うために、法定研修のほかにも、まわりがフォローしながら行っていく。その為にもチェックリストの活用等を考えていく。				

【中期目標】 2. 専門性向上の取り組み

- ・毎年 10 名程の初任者が着任し、初任から 6 年目までの教員が 6 割をしめている。
 - ・経験の浅い教職員が増えてきているので、専門性向上が必要である。
- (評価指標)
- ア：初任者全員の研究授業を 1 学期中にできる限り行う。初任者に対して、研究授業の指導だけではなく、指導案や「個別の指導計画」作成についての指導も首席や指導教諭を活用して行っていく。
- イ：自立活動における専門性向上に向けた取り組み
- ・外部人材を活用した取り組みを最終的には 5 5 回実施予定。この取り組みは、教職員のスキルアップ・専門性向上のために、PT・ST・OT からアドバイスをもらうということが主目的。
 - ・自立活動の専門性の高い教員による巡回指導を行うことで、教職員の専門性を高める。
- ウ：アセスメントスキルの向上と発達検査等の活用できる環境整備
- ・専門性向上に向けて、年間 5 0 回くらいの研修を（外部も含め）実施する。

【中期目標】 3. キャリア教育の推進

- ・キャリア教育の考え方は本校と四條畷校で少し違う。
- ・重度の子どもたちのキャリア教育は、進路指導や職業教育に重点を置くのではなく、何らかの形で自立し社会参加をしていく、そういう意味のキャリア教育を進めている。
- ・昨年度は教職員にキャリア教育の観点を広めるために、キャリア教育についての話を所々でし、研修や話し合いを進めた。
- ・今年は教育課程も含めて具体的にどうやっていくか検討を始めている。
- ・8 月 2 9 日には、飯野先生にきていただき、講演をお願いしている。（公開研修会）
- ・高等部の選択制コース授業は昨年からスタートし、今年 2 年目を迎えている。

【中期目標】 4. センターの機能の充実

- ・地域の学校の組織力をあげるために、支援の質を変えていく。
- ・次世代育成として、校内支援や家庭支援ができる人材を育成していく。

*** << 四條畷校「学校経営計画」説明 >>**

「めざす学校像」実現に向けての「中期的目標」を確認後、准校長が「今年度の具体的な取組内容とその評価指標」を中心に説明を行った。

【中期的目標】 1. 安全安心な学校づくり

- ・四條畷校は当初今年度末で閉校ということで開校されたが、府内の生徒の数が増加の傾向にあり、当分の間存続することになった。
- ・平成 27 年度枚方市にできる新校開校に伴い、四條畷校の通学区域が変更。現在四條畷校に通っている枚方市と交野市在住の生徒が一斉に新校へ転校となる。
- ・通学区域の変更や生徒の数の変更も視野に入れて、PTA と連携して、大災害時の備蓄品の調整をしている。
- ・災害上の情報調査票（例えば自宅で被災した場合の生徒避難場所や緊急連絡先電話番号を明記したもの）を学校で保管している。これに関しては、災害時にしっかり活用できるように今後も整備していきたい。
- ・学校近くにイオンモールが開店するとのことで、地区の避難場所のひとつがイオンモールになるという話がでている。開店したら、四條畷校も避難時の受け入れ等、連携をお願いしたいと考えている。

	【中期的目標】 2. 授業力及び専門性の向上 ・昨年度は初任1年目から3年目の教員30人全員の研究授業実施をめざした。今年度は、研究協議の充実にも力を注ぎたい。(今年度は、授業を作り上げる段階から研究協議をすることになった。首席が中心になり進めている。) ・外部研修も積極的に参加し、それを校内に持って帰ってもらいフィードバックを行う。また、教頭が、障がいの基礎知識スキル等の資料を配付している。 【中期的目標】 3. 社会的自立への支援の充実 ・高等部1年生の段階から生徒のニーズにあったところに実習にいけるように、進路担当を中心に開拓してもらっている。 ・開拓訪問100か所以上、巡回指導250回以上を目標に、引き続き取り組む。 ・クリーンコースの充実を考えているが、生徒数が減ってしまうので、コースの在り方については検討する。 ・就労を希望する生徒については100%の実現をめざしたい。(昨年度は75%) 【中期的目標】 4. 校内支援・地域支援の充実 ・地域支援に関しては、北河内全体でコーディネーターが中心になって取り組んでいる。四條畷校は四條畷市を中心に支援を行っている。 ・校内支援については、養護教諭であるコーディネーターが主になって行っている。 ・支援部のメンバーが中心となっているが、できるだけ若い先生に力をつけてもらえるような体制を組んでいる。
5. 協議内容	*今年度の在籍数、本校での学校経営会議の構成メンバーと人数についての質問 回答：・本校161名(6月現在) ・四條畷校262名(中学部117名 高等部145名) ・本校学校経営会議は校長、教頭2名、首席、指導教諭、各部主事で構成。毎週木曜13:30から学校課題を中心に検討している。 *本校の学校経営計画にある『キャリア教育の推進』についての質問 回答：・本校の課題として、小中高の連携がある。保護者からもしっかり連携してほしいとの要望が挙がってきている。各学部でめざすものがあり、お互いの学部がそれを理解して、引き継いでいく必要がある。同じ学校として教育課程だけではなく、子どもへの対応等も含め一貫した教育を『キャリア教育』という観点で繋いでいこうということ。 *学部間の壁についての要望 ・高等部では子どもを『高校生』として扱ってくれているのはわかるし、そういったことが必要な部分もわかるが、その子どもの発達に合った対応をしてほしいこともある。 ・常にテンションをあげて子どもの指導をしてほしいという要望ではなく、重要なのは小学部でも高等部でも子どもが学校へ行くのが楽しいと思える学校であること。 ・子どもに説明するのと同じように、親にも「次は〇〇部」「次は社会」という意識づけをしてほしい。 *学部間の連携についての質問 回答：「個別の指導計画」も作成・引き継ぎがされており、キャリア教育も進めている。形はできてきていると思う。しかし、保護者からみると、まだまだ学部間の連携に不安の声がある。そこが解消されるように検討していきたい。

*** 平成27年度開校の新校についての質問**

回答：新校に関しては、教育委員会から7月にワーキングの報告会があり、対象を絞って、保護者・本人への説明会が実施される予定。

*** 新校に対する要望**

・新校についても、四條畷校についても詳しいことを聞きたいと思っている保護者はいっぱいいる。不安を感じている。意見も伝えたいし、説明もしてほしい。また、できる限り情報は伝えてほしい。

*** 地域小中学校から支援学校への転校についての質問**

回答：・転校は市教委と府教委の協議。学校教育法が改訂されたこともあり、できる限り柔軟な対応をとというのが今の考え方。
・ただ、年度途中の転校に関しては教員の数がそれによって動くことが少ないので、指導体制上きびしい面もある。できるだけ早くその意思を伝えて関係機関と相談しながら検討してもらいたい。

*** クラスの人数についての質問**

回答：・指導する学級と、教員の人数を決める法定の学級が違うこともある。教室数や教員体制も考慮し指導に適した体制をとっている。

*** 大災害時の対応、地域連携についての質問**

回答：・あらゆる場合を想定した、事細かいマニュアル作成は難しいが、保護者とどのように情報を共有化していけるかがポイント。形だけのものでは意味がないので、保護者とキャッチボールしながら丁寧に進めていきたい。
・四條畷校は近くにイオンモールができるとのことで、できる限り連携をとっていきたい。
・本校は隣に自立センター等があり、ぜひ連携をお願いしたい。また交野市の防災担当部署との連携も必須であり、打ち合わせも行っていきたい。

*** 卒業後の連携についての要望**

・自立センターでも、就労以前の問題で、生活訓練の部分に時間がかかる実態がある。（人間関係や性に関する教育の問題、課題のある行動など）
・学校を卒業したら終わりではなく、学校での取り組みが次の機関でも活かせるように連携していく必要がある。
・医療、福祉、労働、教育の連携が実現できるよう、お願いしたい。

*** 高等部コース制についての質問**

回答：・本校高等部が肢体不自由のみになる際、どういうものが必要かということを考え、進めてきた。昨年度から本格実施している。
・『クリエイティブコース』『ライフデザインコース』の2つを設定。
・『クリエイティブコース』は自分から社会につながっていくことをめざし、『ライフデザインコース』はより個に応じた取り組みをめざしている。
・コース選択に関しては、生徒の実態を見ながら、検査等もしながら本人保護者と相談しながら決めている。

*** 本校校内見学を終えての要望**

・若い先生が多いのは活気があっていいが、挨拶等基本的なことができていないこともある。気をつけてほしい。
・廊下やホールに車いすが多い。整理の仕方を考え、校内美化に努めてほしい。